

World Amateur Orchestra Forum 2022 in Shizuoka



World Amateur Orchestra Forum in Shizuoka 2022

報告書

世界アマチュアオーケストラフォーラム

World Amateur Orchestra Forum in Shizuoka 2022

in 静岡 2022

— オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して —



認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟

NPO-WFAO



2022年9月3日、「世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡 2022」を開催しました。会場は「グランシップ」（静岡県静岡市）で、コロナ禍を経て海外からは10の国と地域より19名の参加者と、3名のビデオ・メッセージ参加がありました。「オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して」“Universality in the orchestra, striving toward a new horizon”をメインテーマに掲げ、コロナ禍で従来の音楽活動が寸断された中でも普遍的な真理を探る機会となりました。

フォーラムには高円宮妃久子殿下のご臨席を賜り、また川勝平太静岡県知事をはじめ多くのご来賓の皆様にもご列席いただきました。









世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡 2022

World Amateur Orchestra Forum in Shizuoka 2022

—— オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して ——

"Universality in the orchestra, striving toward a new horizon"



September 3, 2022 13:30-17:00 (13:00 door open)
Grandship Conference Hall "Winds" (11th Floor)

2022年9月3日(土) 13:30～17:00 (13:00開場)

「グランシップ」 会議ホール「風」(11階)

主催：認定NPO法人 世界アマチュアオーケストラ連盟

協力：公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟
第50回全国アマチュアオーケストラフェスティバル静岡大会実行委員会

Organized by NPO World Federation of Amateur Orchestras

Supported by The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.
Executive Committee of 50th All-Japan Amateur Orchestra Festival in Shizuoka

世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡 2022

◇ 開会のことば

◇ 主催者あいさつ 神野 吾郎（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 会長）

第1部：教育分野でのオーケストラの活用

◇ 基調講演① 講師：ダンカン・ワンブグ博士

（ケニヤッタ大学 音楽・舞踏学部 教授、サファリコムユースオーケストラ 音楽監督）

演題：「ケニアにおけるオーケストラ音楽教育」

◇ パネルディスカッション①

モデレーター：山路 譲（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事）

パネリスト：ダンカン・ワンブグ博士

ヘンリケ・アーネス（ノルウェーユースオーケストラ協会 副理事長）

パン・シューユイン（シンガポール国立ユースオーケストラ マネージャー）

ソーリー・チャン（桃園市中壢青少年管弦楽団協会 理事長）

ビデオメッセージ：ニルパマ・ラオ（元インド外務長官・南アジアオーケストラ基金 創設者）

ファン・カスティージョ（コロンビア国立青少年交響楽団 監督）

第2部：オーケストラの活動と社会とのつながり

◇ 基調講演② 講師：エレナ・ラホーナ

（ニューヨーククレイトスターターズストリングオーケストラ 創設者）

演題：「喜びのための音楽」

◇ パネルディスカッション②

モデレーター：山路 譲（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事）

パネリスト：エレナ・ラホーナ

ヘルゲ・ローレンツ（ドイツアマチュアオーケストラ連盟 会長）

ヤン・マティス（フランドルアマチュア音楽協会 最高経営責任者）

下谷 剛嗣（公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟 理事長）

ビデオメッセージ：マリア・ナウエン（北京国際室内管弦楽団 創設者・指揮者）

第3部：次世代につなぐアマチュアオーケストラ活動

◇ **TYOC 活動紹介** 松口 直樹（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事）

◇ **演奏** 久石 譲 作曲（宮本貴太 編曲）「サマー」
ベートーベン 作曲（宮本貴太 編曲）ピアノソナタ第8番「悲愴」 ハ短調（第2楽章）

〈演奏者〉 1st ヴァイオリン：ネヴィル・アセナシウス・アン（シンガポール）

尾上 香織（日本）

2nd ヴァイオリン：ティンフン・チャン（台湾）

ジューンビン・リー（韓国）

ヴィオラ：宮本 貴太（日本）

エムリン・ポンス（フィリピン）

コントラバス：藤波 梓（日本）

クラリネット：金田 彩音（日本）

伊串 有香子（日本）

◇ パネルディスカッション③

モデレーター：千葉 安紀子（認定 NPO 法人世界アマチュアオーケストラ連盟 理事）

パネリスト：ネヴィル・アセナシウス・アン（シンガポール TYOC in 東京）

ジューンビン・リー（韓国 TYOC in 東京）

ティンフン・チャン（台湾 TYOC in 浜松）

エムリン・ポンス（フィリピン TYOC in 岐阜）

尾上 香織（日本 TYOC in 豊橋）

◇ **総括** 森下 喜久子（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 副理事長）

◇ 記念品贈呈（特別功労者）

アレックス・ベバーレン（ベルギー / 世界アマチュアオーケストラ連盟 名誉理事長）

エリック・コロソ（ベネズエラ / 認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 副理事長）

◇ 閉会のことば

司 会：森 修二（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 副理事長）

通 訳：長井 鞠子（株式会社 サイマル・インターナショナル）

佐藤 雅子（株式会社 サイマル・インターナショナル）

小野 彩子

コーディネーター：平松 治生（認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事）

※フォーラムの様子は
YouTube サイトで全編
で視聴いただけます。



YouTube サイト
NPO-WFAO チャンネル



主催者あいさつ

Greetings from the Organizer

神野 吾郎

Goro Kamino

認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 会長

President, NPO World Federation of Amateur Orchestras

本日は、高円宮妃殿下、川勝静岡県知事のご臨席を賜り、世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡を開催できますこと、誠にうれしく存じます。主催者を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今回のフォーラムは、このコロナ禍の中、世界10か国から19名もの方々にお越しいただき、こうして開催が実現できました。皆さん、ようこそ日本へお越しくださいました！

皆様よくご存じの通り、アマチュアオーケストラ活動には数多くの意義がありますが、その中でも特に私が大切だと思っている3点について述べさせていただきます。

最初は、様々な場面でもキーワードになっている「つながり」です。オーケストラは、“音楽”という世界共通言語によって、時代や国境を越え、そして性別や世代も越えて、世界中の人と人とは広く、深くつながることができます。

二つ目には、お互いの違い、そして良さを理解し、認め合うことです。メンバー同士の「通じ合いたい」という“心の交流”によって、オーケストラという楽器は、国境を越えた豊かな響きを奏でることができるのです。

そして最後は、メンバー全員が力を合わせて音を奏でることです。オーケストラ活動は、100名を超える人々が協力して行なう集団活動であり、互いの調和が不可欠です。

さて、本日のフォーラムでは、「オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して」をテーマといた

しました。ご承知の通り、昨今の世界情勢は世界中の方々が直面したコロナ禍をはじめ、とても複雑であり、様々な不幸や困難な状況が発生しています。そのような中で、私たちはアマチュアオーケストラ活動の意義や本質を考え、様々な情勢の中でも変わらない「オーケストラに内在する普遍性」を追求したいと考えました。

第1部では 教育分野でのオーケストラの活用として「青少年教育」について、基調講演とパネルディスカッションが行われます。基調講演には、はるばるアフリカのケニアから、ダンカン・ワンブグ博士がいらっしゃいました。また、インドやコロンビアからもビデオメッセージが届いています。

第2部では、「オーケストラの活動と社会とのつながり」というテーマで、基調講演とパネルディスカッションが行われます。基調講演のために「ニューヨーク レイトスターターズ ストリングオーケストラ」の創設者、エレナ・ラホーナさんが来日されました。

そして第3部では「次世代につなぐアマチュアオーケストラ活動」として、未来を担う青少年たちの演奏とパネルディスカッションが用意されています。

世界各地で、熱心にオーケストラ活動をされている多くの方々の熱い思いにふれていただき、そしてこのフォーラムが、皆様方の未来につながる「新たな地平」を目指す機会となりますことを祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

第1部：教育分野でのオーケストラの活用



第1部は青少年教育に焦点を当て、ケニヤッタ大学 音楽・舞踏学部 教授、「サファリコムユースオーケストラ」音楽監督のダンカン・ワンブグ博士に、「ケニアにおけるオーケストラ音楽教育」と題して基調講演いただきました。ケニアの教育システムにおける音楽教育の変遷を解説されつつ、2018年の制度改革において教育の包摂性と生徒の能力開発を意図したアンサンブル音楽や、オーケストラの発展が学校で促進されるようになったことや、全国の生徒が参加するケニアミュージックフェスティバルの中で、コンクールや器楽教育を活発に進めることにより、公立学校教育システムにおいて器楽教育の重要性を高めていることを紹介されました。ダンカン・ワンブグ博士は、生徒にとって重要なリテラシーを、コミュニケーションと協力、批判精神、問題解決、イマジネーションと創造力、公民感覚、学ぶことを学ぶ、自己効力感、それからデジタルリテラシーと定義した上で、オーケストラ音楽教育を、生徒たちに音楽的・非音楽的なメリットを体現するものであることから、教育制度の主流にぜひ埋め込んでほしいと訴えられました。

基調講演を受けて、続くパネルディスカッションでは、「若者にとってオーケストラ活動から得られる学びは何か？」を議論しました。NPO-WFAOの山路譲理事をモデレーターに、シンガポール、台湾、ノルウェーの代表者、およびダンカン・ワンブグ博士の4人で話し合いました。シンガポールのパン・シューユイン氏は、自身がマネージャー

を務める「シンガポール国立ユースオーケストラ」が国内唯一の青少年オーケストラであり、公立学校の課外活動としての重要な位置づけを担っていることを紹介しました。青少年の学びとして、自己管理ができるということ、責任ある意思決定ができるという社会に対する意識が高まること、そして人間関係の管理ができるという能力を挙げられました。より専門的には、青少年が自分たち自身の心の声を見つけて、自分たち自身のパーソナリティを発見し、そして社会の一員であるということの意味を理解するということ、そして世界市民であるという意味を理解することを願って、具体的に目指す能力を定義しながら活動を進めていると話しました。

台湾のソーリー・チャン氏は、オーケストラ活動で性格を形成するという、人格形成を重視しているとのことでした。その活動の一環として、「JAO フェスティバル」や「トヨタ青少年オーケストラキャンプ (TYOC)」への積極的参加による国際交流の中から人材形成を指向していると発言されました。とりわけ青少年オーケストラの持つ参加者の多様性とそれらの包摂性が若者の人材形成に重要な意味を持つことを主張されました。課題として、公的な学校教育プログラムにオーケストラ教育がないことから活動が制約されること、教育する側の人材不足などが挙げられ、国をまたいだ活発な意見交換が行われました。

また、「若者にとっての学びを将来にどう活用できるのか」という視点でも議論を重ねました。ノルウェーのヘンリケ・アーネス氏は、音楽教育では、若者が楽器を演奏できるようにするというだけでなく、協力的な心の広い人間を育てることができ、それらを将来活用できる機会につながれると語りました。また大人の目線から、大人の世代の成果を若者が続けて発展させるような、人間としてのミッションを果たしていけるような機会を、失敗を恐れずに作っていくことが大切であると主張しました。また、ダンカン・ワンブグ博士は、今後はオーケストラとしてあるいは組織とし

て我々が考えなければいけないのはテクノロジーとの統合である、と問題提起されました。そのためには、友情が育つこと、そして社会的なスキルが向上すること、というオーケストラの社会的な側面を損なうことがないように注意が必要であり、共感・同情の心を忘れずに、テクノロジーとの共存を図ることが大切であるとの結論を導かれました。

さらに、活動がコロナ禍で寸断されたことで、特に若者が影響を受けていることにも話が及び、若者の成長に乱れが生じていることに的確に対応することが、未来を描く上で重要であることを確認しました。洞察に富んだ意見交換を経て、「普遍性」については、私たちが演奏する音楽を通し、音楽の演奏・共通の経験を通して一緒にすることが軸であることを確認しました。また、「新たな地平を目指して」という観点では、利便性があるテクノロジーを取り入れながらも、同時に伝統を維持する必要があることを確認しました。

最後にコロンビア国立青少年交響楽団監督のファン・カスティージョ氏が、ビデオメッセージで同団の活動を紹介しつつ、若者のスキルを伸ばしている様子や、若者が一緒に協力し合って能力を高め、個人としてではなくチーム作りをして、自分の国のオーケストラであるという信念のもと活動している様子が披露されました。

また、インドのニルパマ・ラオ氏もビデオメッセージで参加し、南アジアオーケストラを編成するというプロジェクトの紹介がありました。アフガニスタン、パキスタン、インド、ネパール、バングラデシュ、ブータン、スリランカ、モルディブの8か国で構成された、南アジアという広大な地域で共存・協力をするに挑戦するプロジェクトでした。オーケストラにおけるハーモニーが、今の世界では本当に必要とされている、無知や違いがあることで生まれている心の断絶に対し、オーケストラを通して人々が結束し、オーケストラの中でお互いに耳を傾けることで、違いを乗り越えることができるという信念のもと、プロジェクト活動を進めていると紹介されました。



基調講演〈1〉



〈講演者紹介〉 Introduction of Speakers



ダンカン・ワンブグ 博士

Dr. Duncan Miano Wambugu

ケニヤッタ大学 音楽・舞踏学部 教授
サファリコムユースオーケストラ 音楽監督

Lecturer, Department of Music and Dance at Kenyatta University
Music Director, Safaricom Youth Orchestra

ケニアのナイロビ出身で、現在はナイロビのケニヤッタ大学音楽・舞踊学部の講師を務めています。また、ナイロビのセント・アンドリュース長老教会でオルガニスト／合唱監督を務めています。

カナダ・アルバータ州のオーガスタナ大学カレッジで音楽学士号（オルガン演奏）を取得（1999年）、アルバータ大学で音楽修士号（合唱指揮）を取得（2003年）、フロリダ大学音楽学部で音楽教育学の博士号を取得（2012年）しました。

カナダ滞在中は、オーガスタナ大学カレッジのチャペルオルガン奨学生、アルバータ大学混声合唱団のアシスタントコンダクター、エドモントンのリチャード・イートン シンガーズのコーラスアシスタント、アルバータ大学マドリガル シンガーズ、プロフェッショナルコーラス PROCORO Canada のメンバーとして活動しました。

フロリダでは、2009年9月にスタートしたフロリダ大学初のアフリカ合唱団 Pazen Sauti の創設者／ディレクターを務めています。

また、ケニア音楽祭（全国大会）、コーラス・フェスティバル・アルバータ（北・南）（カナダ）の審査員、ナイロビ・オーケストラ、ケニア音楽院オーケストラ、ナイロビ音楽協会、カンパラ・シンフォニー＆コーラスの指揮者、ケニア大統領府音楽委員会の臨床医／ファシリテーター、ケニア音楽祭財団、全アフリカ教会会議のリソースパーソン（音楽）を務めています。

2008年には、リアリティ番組「IDOLS- 東部・南部アフリカ」のヴォーカル・コーチに抜擢されま

した。2011年には、世界的に有名なボーカルグループ Ladysmith Black Mambazo とケニアの Sauti Sol を招いた Safaricom Classical Fusion Festival の音楽ディレクターに任命されました。

また、アフリカ（アート）音楽の演奏と音楽教育の様々な側面について、国内外の音楽会議やワークショップで論文を書き、発表しています。博士論文では、ケニアの高校の音楽カリキュラムにケニアの合唱芸術音楽が使用されている根拠を探りました。

これまでに、オーガスタナ大学チャールズ・K・ノーブル賞、オネシマス賞、フロリダ大学アレック・コートリス賞、フロリダ大学芸術学部留学生優秀賞、フロリダ高等教育芸術ネットワーク擁護賞、アルバータ大学ホライズン賞、ケニヤッタ大学エクストラマイル賞など、様々な賞を受賞しています。

2013年にケニアに帰国して以来、2014年5月に設立されたサファリコム・ユース・オーケストラ（SYO）の音楽監督に就任し、ゲッター・クラシックとケニア国立ユースオーケストラ（KNYO）のプログラムを運営する Art Of Music Foundation の理事、ケニア音楽・文化フェスティバル（KM&CF）委員会委員も務めています。

また、国内外の様々な会議やワークショップで積極的にプレゼンテーションを行い、ナイロビ・オーケストラ、国立青少年交響楽団、SYO の様々なコンサートで指揮をしています。ケニヤッタ大学音楽学部の教員を続けています。

パネルディスカッション〈1〉



パネリスト



Norway



ヘンリケ・アーネス

Henrik Aarnes

ノルウェーユースオーケストラ協会 (UNOF) 副理事長

Vice Chairman, The Norwegian Youth Orchestra Association (UNOF)



パネリスト



Singapore



パン・シューユイン

PANG Siu Yuin

シンガポール国立ユースオーケストラ (SNYO) マネージャー

Manager of Orchestra, Singapore National Youth Orchestra SNYO



パネリスト



Taiwan



ソーリー・チャン

Souly Chang

桃園市中壢青少年管弦楽団協会 (JYO) 理事長

Chairperson, Taoyuan City Jungli Youth Orchestra Association JYO



パネリスト



Kenya



ダンカン・ワンブグ博士

Dr. Duncan Miano Wambugu

ケニヤッタ大学 音楽・舞踏学部 教授

サファリコムユースオーケストラ 音楽監督

Lecturer, Department of Music and Dance at Kenyatta University
Music Director, Safaricom Youth Orchestra



ビデオ・メッセージ



Colombia

ファン・カスティージョ Juan Andres Rojas Castillo

コロンビア国立青少年交響楽団 監督

Director, Filarmonica Joven de Colombia



ビデオ・メッセージ



India

ニルパマ・ラオ Nirupama Rao

元インド外務長官・南アジアオーケストラ基金 創設者

Former Foreign Secretary of India

Founder-Trustee, The South Asian Symphony Foundation



モデレーター



山路 譲

Joe Yamaji

認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事

Director, NPO World Federation of Amateur Orchestras



第2部：オーケストラの活動と社会とのつながり



第2部では、生涯教育の側面もあるアマチュアオーケストラと社会との接点について、議論を進めました。まずは、基調講演でエレナ・ラホーナ氏（ニューヨーク レイトスターターズ ストリングオーケストラ 創設者）が「喜びのための音楽」と題して、人間であると感じる最も基本的なニーズに立ち返ってアマチュアオーケストラの「普遍性」を講演されました。過度な物質主義や権力を求めることなく、人間らしさを大切に、完璧を求めずにつながりや楽しさを大切にする幸せに気づくべきだとして、アマチュアオーケストラを喜び、包摂性、人間性に基づいた共通の場であると訴えました。また、アマチュア音楽活動のメリットについて、音楽は個人の成長だけでなく、地域社会や文化にも大きな影響を与えると述べられています。人間らしさを取り戻すために音楽が重要であり、アマチュア音楽が地域の福祉に欠かせないという認識を高める必要があると強調されました。

続くパネルディスカッションでは、「アマチュアオーケストラの社会への貢献」をテーマに議論が進められました。ベルギーのヤン・マティス氏は音楽を芸術とともにツールとしても捉え、音楽は温かく多様性のある包摂性のある社会を作るツールであるとし、大きなインパクトを社会に与えると話されました。とりわけ、ウェルビーイング（幸せ）のためのツールであると主張されました。

また、ドイツアマチュアオーケストラ連盟会長



のヘルゲ・ローレンツ氏は、ドイツにはプロのオーケストラが約130団体、アマチュアオーケストラが約900団体あることを踏まえ、質に加え量という観点で文化的なサービス・付加価値を社会に提供していると説明されました。そしてSDGsの視点での貢献や、LGBTQオーケストラの事例を発表されました。とりわけ、音楽教育を通じた教育への貢献を、アマチュアオーケストラの普遍性と位置付けて発言されました。

日本からはJAOの下谷剛嗣理事長がパネラーとなり、JAOとしてもSDGsの研究を始めており、普段の活動がところどころでSDGsに当てはまっていることを再認識していると述べました。JAOの取り組みとしては、多いものからゴール4「質の高い教育をみんなに」、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」に貢献しているという状況が紹介されました。また、「社会にとってアマチュアオーケストラ活動がどのような意味を持っているのか」という視点で、自らの人生を創造する参加者としての側面と、感動や癒しを得るという聴衆としての側面が、演奏会の中でクロスオーバーしていることが重要であると指摘しました。さらにJAOの重要な取り組みとして1985年から続けている「トヨタ青少年オーケストラキャンプ（TYOC）」についても紹介しました。ここでは練習だけでなく、企画運営も自ら実施する取り組みをしており、音楽的な研修と同様に運営に関わる協議や実務も大切にしています。その結果、TYOCの卒業生は技

術と運営の両面の成果を各自が所属する地元オーケストラに移植し、演奏レベルの向上と地域の音楽文化の普及向上に貢献することを目指している取り組みであることを共有しました。そして、音楽の普遍性という中に「共感」というキーワードを持って、「世界の人々が共感する日を願っている」と締めくくりました。

第2部の最後には、北京国際室内管弦楽団創設者のマリア・ナウエン氏によるビデオレターが紹介されました。北京国際室内管弦楽団は25もの国籍の35人の音楽家で構成されています。違う国籍の人たち、違う文化的背景の人たちが平和裏に一緒に音楽を実践していることを踏まえ、音楽は平和の担い手であり、重要な使命であると述べられました。

第2部はパネラー全員の討議により、世界はもっとアマチュアオーケストラを必要としている、そして、音楽は平和と愛のために存在する、と議論をまとめました。



基調講演〈2〉



〈講演者紹介〉 Introduction of Speakers



U. S. A.

エレナ・ラホーナ

Elena Rahona

ニューヨーク レイトスターターズ スtringオーケストラ
(NYLSO) 創設者

Founding Executive Director,
The New York Late-Starters String Orchestra

私は「ニューヨーク レイトスターターズ スtringオーケストラ (NYLSO)」の創設者です。

私も後発組で、ずっとヴァイオリンを弾くことを夢見ていましたが、大学を出て独り立ちしたときようやくその機会を得ました。

NYLSO を設立したのは、イギリスの「イーストロンドンレイトスターターズオーケストラ (ELLSO)」のサマー・String・プログラムから帰国し、ニューヨークには同様な組織がないことに気づいたからです。ELLSO とは密接な関係を

保っており、毎年夏になると渡英して、彼らからインスピレーションとモチベーションをもらっています。

また、私はニューヨークの国立交響楽団でヴァイオリンを担当しており、国際レイトスターターオーケストラネットワークの設立に向けた予備的な話し合いにも参加しています。

さらに、スペイン語の個人教師でもあり、環境問題や社会正義の問題について執筆するフリーランス・ライターでもあります。

パネルディスカッション〈2〉



パネリスト



Germany



ヘルゲ・ローレンツ

Helge Lorenz

ドイツアマチュアオーケストラ連盟 (BDLO) 会長
President, German Association of Amateur Orchestras (BDLO)



パネリスト



Belgium



ヤン・マティス

Jan Matthys

フランドル地域楽団・音楽家協会 (VLAMO) 最高経営責任者 (CEO)
CEO, Flemish Association of Bands and Musicians (VLAMO)



パネリスト



U. S. A.



エレナ・ラホーナ

Elena Rahona

ニューヨーク レイトスターターズ ストリングオーケストラ (NYLSO) 創設者
Founding Executive Director, The New York Late-Starters String Orchestra



パネリスト



Japan



下谷 剛嗣

Takeshi Shimoya

公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟 (JAO) 理事長
Chairperson, The Federation of Japan Amateur Orchestras Corporation (JAO)



ビデオ・メッセージ



China

マリア・ナウエン

Maria Nauen

北京国際室内管弦楽団 創設者・指揮者
Founder and Chief Conductor, Beijing International Chamber Orchestra

第3部：次世代につなぐアマチュアオーケストラ活動



第3部では、若者が主役となって、「トヨタ青少年オーケストラキャンプ（TYOC）」卒業生による、演奏とパネルディスカッションが行われました。

まず最初に、NPO-WFAOの松口直樹理事により、TYOCの活動紹介が行われました。その中で1985年以降38年間にわたる活動で、TYOCの卒業生がのべ6,100名にもものぼることを報告しつつ、学んだことを故郷に持ち帰ること、キャンプの企画運営も自ら行うこと、「音の輪を世界に広げよう」を合言葉に国際交流にも力を入れていることを紹介し、各国からのTYOC卒業生の若者9名によるアンサンブル演奏を行いました。静岡県を題材にした映画音楽の久石譲作曲「サマー」と、コロナの渦中にリモートでアンサンブルした曲目、ベートーベン作曲ピアノソナタ第8番「悲愴」ハ短調（第2楽章）の2曲を、息の合ったアンサンブルで披露しました。

《多士済々な卒業生》

パネルディスカッションは「次世代につなぐアマチュアオーケストラ活動」をテーマに、NPO-WFAOの千葉安紀子理事がモデレータとなって進められました。

パネリストのエムリン・ポンス氏（フィリピン）は、TYOCを卒業し、現在フィリピンシンフォニーオーケストラの首席バイオリニストとして、自国でオーケストラ文化を根付かせる活動に従事しています。

ネヴィル・アセナシウス・アン氏（シンガポール）は音楽を学ぶ大学院生である傍ら、メトロポリタンフェスティバルオーケストラの首席バイオリニストを務めており、TYOCで日本のプロ演奏家に楽器毎のレッスンを受けたことが音楽を極めるモチベーションにつながっていると語り、そして自らの演奏を聴かせることで次世代の音楽家を育て

ることにつなげたいと述べました。

ティンフン・チャン氏（台湾）はTYOCを卒業後、自ら音楽スタジオを設立し、台湾の人々に室内楽を教えています。室内楽を切り口に様々な国際的イベントにも参加しつつ、台湾の音楽界を変えていきたいと抱負を述べました。

ジューンビン・リー氏（韓国）はTYOCを経験後、現在ソウル国立大学で物理学の博士課程に在籍しながら、アマチュアオーケストラ活動を継続しています。学問として宇宙の普遍性を極めつつ、音楽からも世界を「ハーモナイズ」させることを目指しています。

尾上香織氏（日本）はTYOCでの経験を活かし、熊本ユースシンフォニーオーケストラの指導者として活躍する一方、海外青年協力隊として2年半トンガで弦楽器の指導を行い、演奏技術の指導に加え、日本への演奏旅行という国際交流活動も実現。音楽を通じた国際交流を牽引していることを紹介されました。

このように、TYOCを卒業した多士済々のメンバーが、日本だけでなく世界でも活躍していることを共有することが出来ました。

《TYOCでの学びを未来につなげる》

引き続き、パネラーにとって「TYOCで特に印

象に残っていること、人生に役立っていること」を語り合いました。エムリン・ポンス氏は、自国でTYOCと同様の活動をしたいとのインスピレーションを得て、フィリピンの地域社会にオーケストラ活動を啓蒙していきたいという強い動機付けとなったことを話しました。ネヴィル・アセナシウス・アン氏はTYOCのキャンプ期間中、朝9時から夜9時までの長時間のリハーサルが印象的だったこと。楽しいから、好きだから音楽をやる、という活動の根本を積極的に実践していきたいと語りました。ティンフン・チャン氏は、TYOCでの経験を台湾に持ち帰り伝えることで、仲間と何十回と練習を繰り返すことが苦にならなかった、音楽に取り組む姿勢が変わった、一緒に演奏してくれるメンバーがどんどん増えていったと語ってくれました。また、ジューンビン・リー氏は、TYOCの国際交流活動が、国際的な人材になるという自分自身の夢につながったとのこと。尾上香織氏は、まさに音楽は世界共通語であって、開発途上国、先進国を問わず、いろいろな国々による音楽を通じた交流が明るい未来を作ると感じたと話しました。

多士済々のTYOC卒業生のネットワークが、未来の国際交流の基礎となっていくことを実感できた、有意義なパネルディスカッションでした。



パネルディスカッション〈3〉



パネリスト

エムリン・ポンス

Emlyn Ponce



フィリピン大学交響楽団 首席ヴィオラ奏者
スズキ・メソッド 認定指導者

Principal Viola of University of the Philippines Symphony Orchestra
Certified Suzuki Teacher



パネリスト

ネヴィル・アセナシウス・アン

Neville Athenasius Ang



ヨン・シュー・トー（楊秀桃）音楽院 大学院生、シンガポール交響楽団 フリーランス
メトロポリタンフェスティバルオーケストラ 首席ヴァイオリン奏者、テヌート・ミュージック・スタジオ 共同創設者
Graduate Student at the Yong Siew Toh Conservatory of Music, Freelancing at the Singapore Symphony Orchestra
Principal Violinist at the Metropolitan Festival Orchestra, Co-founder of Tenuto Music Studio



パネリスト

ジュンビン・リー

Joon-Bin Lee



ソウル大学 物理・天文学科
高エネルギー加速器研究室 大学院生
Graduate student, High Energy Collider Lab.,
Department of Physics & Astronomy, Seoul National University



パネリスト

ティンフン・チャン

Ting-Hung Chang



悦聚（ユエ・ジュ）室内楽団 創設者、桃園中壢青少年管弦楽団協会副指揮者
ヴァイオリン教師（仁美ウォルドルフ中学校管弦楽団・大華インターナショナルスクール）
Founder of Yue Ju Chamber Music, Assistant Conductor of Taoyuan City Jungli Youth Orchestra Association
Violin teacher (Orchestra of Zen Mei Waldorf Junior High School / Ta Hwa Bilingual Elementary School)



パネリスト

尾上 香織

Kaori Onoue



JICA デスク熊本 国際協力推進員

熊本ユースシンフォニーオーケストラ 指導者

Officer of International Cooperation Promotion, JICA Desk Kumamoto
Instructor of Kumamoto Youth Symphony Orchestra



モデレーター

千葉 安紀子



Akiko Chiba

認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 理事

Director, NPO World Federation of Amateur Orchestras



記念品贈呈（特別功労者）

《アマチュアオーケストラは社会と文化の架け橋》

第1部・第2部・第3部の議論を終え、NPO-WFAOの森下喜久子副理事長から総括コメントがありました。アマチュアオーケストラ活動が、青少年教育をはじめとして、社会教育、生涯教育にとっても有意義であること、また、個々の音楽的楽しみだけでなく、多数の人間の共同芸術活動として、国境も年代も超えたところで、人と人、そして社会との広がりにつながり、さらに地域社会への発展にも貢献できることを再認識できたと、フォーラムを振り返りました。

併せて、この30年間のアマチュアオーケストラによる国際交流活動において、長年多大な貢献をされた、アレックス・ベバーレン氏（ベルギー）とエリック・コロン氏（ベネズエラ）に、感謝の気持ちを表してトロフィーを贈呈しました。アレックス・ベバーレン氏は、アマチュアの音楽家とオーケストラをつなぐという活動をこれからも継続し、その想いを多くの人々と共有していきます、と謝辞を述べられました。



（エリック・コロン氏はフォーラム当日欠席のため、後日改めてお渡ししました。）

フォーラム総括・静岡メッセージ2022

フォーラムの翌日、参加者全員が集い、今回の国際交流活動を「静岡メッセージ2022」にまとめ、総括しました。前日のパネルディスカッションの内容を踏まえ、オーケストラの社会的役割や今後の活動に向けて、充実した討論が行われました。今後とも活動をますます発展させることを参加者全員で誓いました。

【静岡メッセージ2022】

“オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して”

2022年9月、「世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡」で、10の国と地域からアマチュアオーケストラとその統括組織の代表者が集結しました。コロナ禍を経て集まることができたことは大変意義深いものでした。

フォーラムでは「オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して」をテーマに、参加各国の多様な考えを紹介し合い共有しました。また「教育分野でのオーケストラの活用」「社会とつながるオーケストラ活動」「次世代につなぐアマチュアオーケストラ活動」について、パネルディスカッションによって議論を深めました。また、フォーラム参加者から報告されたさまざまな活動は、国連が掲げるSDGsの達成に向けて、世界のアマチュアオーケストラが、それぞれに独特で重要な貢献をしていることを証明するものでもありました。

〈オーケストラの普遍性〉

「オーケストラの普遍性」については、まず、「音楽の本質や価値について考え、感動することは、宇宙や人間の存在におけるアイデンティティについて洞察することであること」を再確認しました。

1. 一人ひとりが音楽表現の喜びを感じられる、人間らしい自己表現の場であり、人間感性の表出が可能でもあるということ。
2. 音楽への情熱を原動力に、社会の一員として他の人と一緒に楽しみたいという自覚ができる場

であるということ。

3. 性別・年齢・人種・民族・国籍・宗教・言語・伝統・習慣・文化の区別なく、あらゆる人々を包摂するコミュニティを形成する貴重な場であること。

4. 演奏者にとって、音楽を介して聴衆や関係者など社会との絆を深めるものであること。

〈新たな地平を目指して〉

新たな地平を目指して、以下の点を確認し合いました。

1. 多種多様なアマチュアオーケストラのネットワークを広げ続けること。
2. オーケストラの持つ普遍性をより永続的なものにするために、生涯音楽の観点からアマチュアオーケストラ愛好家を増やすこと。
3. 多様化の時代であり、緊張の続く国際情勢下にあって、青少年の精神的な成長を育むこと。
4. オーケストラ活動を、より創造的で思索的なものとし、より良く生きる基盤とすること。
5. 社会貢献を実践し、相互理解による調和と平和な世界の実現に貢献すること。

以上を私たちは「静岡メッセージ2022 “オーケストラの普遍性 新たな地平を目指して”」として共有し、国際交流活動を継続・発展させることを誓います。

2022年9月4日



4 日間の交流記録 2022年9月1日(木)～9月4日(日)

世界アマチュアオーケストラ フォーラム in 静岡 2022

9月1日(木)

18：30 歓迎夕食会（ホテルグランヒルズ静岡 5階「センチュリールーム」）

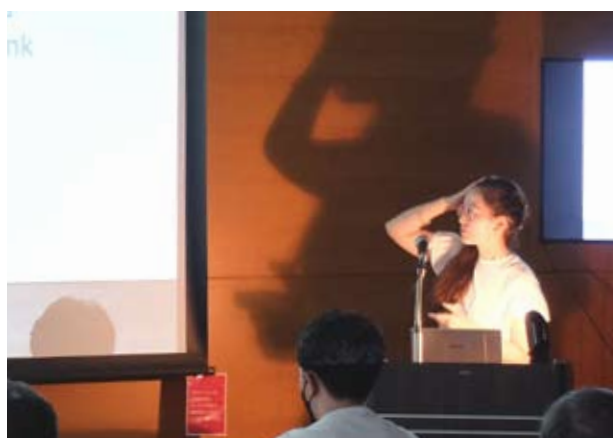


9月2日(金)

- 9:00 貸切バスにて観光（日本平、久能山東照宮、日本平ロープウェイ）
- 12:00 日本平レストラン「月日星」にて昼食
- 13:00 「第50回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル 静岡大会」開会式に参加
（静岡県コンベンション・アーツ・センター「グランシップ」1階 大ホール「海」）
- 14:00 イントロダクション1（904会議室）
- ・フォーラム開催の趣旨説明 平松治生（NPO-WFAO 理事）
 - ・パワーポイントに基づく団体／オーケストラの報告と質疑
- | | |
|-------------------|--------------------|
| ①森下喜久子（日本） | ②ウチャ・カロリーナ（アルゼンチン） |
| ③ヤン・マティス（ベルギー） | ④ヘルゲ・ローレンツ（ドイツ） |
| ⑤ダンカン・ワンブグ博士（ケニア） | ⑥ヘンリケ・アーネス（ノルウェー） |
| ⑦ジョンピル・リー（韓国） | ⑧パン・シューユイン（シンガポール） |
| ⑨ソーリー・チャン（台湾） | ⑩エレナ・ラホーナ（アメリカ合衆国） |
- 16:30 練習見学
フォーラム打合せ
- 18:45 夕食会（ホテルグランヒルズ静岡1階「THE TABLE」）



9月2日(金)



9月2日(金)



9月3日(土)

9:30 インTRODクシヨ2 (904 会議室)

・参加者からの意見発表

①フリーデマン・カルマイヤー (ドイツ)

②マティルデ・ザルツマン (ドイツ)

③カール・ニニアン・ウィカ (ノルウェー)

④ヘレマンス・シュテファン (ベルギー)

⑤柳 在政 (IOV-JAPAN)

⑥アレックス・ベバーレン (ベルギー)

・総括質疑

10:30 練習見学

フォーラム打合せ

13:30 「世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡 2022」

(グランシップ 11 階 会議ホール「風」)

17:30 高円宮妃殿下との記念撮影 (12 階ロビー)

18:00 公式レセプション (1001 会議室)

19:05 夕食会 (グランシップ 1 階「bakery & cafe GALLEY」)



9月4日(日)

- 9:30 WFAO会議 (904 会議室)
アジア青少年会議 (905 会議室)
- 11:30 まとめと共同メッセージ (904 会議室)
- 14:00 「第50回全国アマチュアオーケストラフェスティバル」
フェスティバルコンサート鑑賞
(グランシップ1階 大ホール「海」)
- 15:45 閉会式



「世界アマチュアオーケストラフォーラム in 静岡 2022」 参加者リスト

アルゼンチン	ウチヤ・カロリーナ	SOIJAr, プログラム担当職員
ベルギー	アレックス・ベバーレン	WFAO 名誉理事長 / VLAMO 芸術顧問
ベルギー	ヤン・マティス	VLAMO 最高経営責任者
ベルギー	ヘレマンス・シュテファン	VLAMO 理事
ドイツ	ヘルゲ・ローレンツ	BDLO 会長 / WFAO 理事
ドイツ	フリーデマン・カルマイアー	BDLO 副会長
ドイツ	ファルク・カビアッシュ・ローレンツ	
ドイツ	マティルデ・ザルツマン	BDLO メンバー
ケニア	ダンカン・ワンブグ博士	ケニヤッタ大学音楽・舞踏学部教授 / SYO 音楽監督
ケニア	ミシ・ワンビジ	サファリコム PLC ブランド資産マネージャー
ノルウェー	カール・ニニアン・ウィカ	WFAO 理事長 / UNOF 代表
ノルウェー	ヘンリケ・アーネス	UNOF 副会長
フィリピン	エムリン・ポンス	TYOC 岐阜
韓国	ジョンピル・リー	社会協同組合「カルチュラル・コモンズ」
韓国	ジュンビン・リー	TYOC 東京
シンガポール	パン・シューユイン	シンガポール国立ユースオーケストラ マネージャー
シンガポール	ネヴィル・アセナシウス・アン	TYOC 東京
台湾	ソーリー・チャン	桃園中壢青少年管弦楽団協会 理事長
台湾	ティンフン・チャン	TYOC 浜松
アメリカ	エレナ・ラホーナ	NYLSO 創設者
日本	神野 吾郎	NPO-WFAO 会長
日本	下谷 剛嗣	NPO-WFAO 理事長 / JAO 理事長
日本	森下 喜久子	NPO-WFAO 副理事長
日本	森 修二	NPO-WFAO 副理事長 / WFAO 理事
日本	山路 譲	NPO-WFAO 理事 / WFAO 副理事長
日本	平松 治生	NPO-WFAO 理事 / WFAO 理事
日本	関岡 真	NPO-WFAO 理事
日本	伊藤 知克子	NPO-WFAO 理事
日本	柳 在政	NPO-WFAO 理事 / IOV-JAPAN 会長
日本	植田 憲男	IOV-JAPAN 副会長
日本	小野田 真稔	NPO-WFAO 理事
日本	千葉 安紀子	NPO-WFAO 理事
日本	羽田野 良裕	NPO-WFAO 理事
日本	松口 直樹	NPO-WFAO 理事
日本	寺部 信行	NPO-WFAO 監事
日本	小野 彩子	通訳
日本	宮本 貴太	NPO-WFAO スタッフ
日本	尾上 香織	NPO-WFAO スタッフ
日本	野村 有里	NPO-WFAO スタッフ
日本	藤波 梓	NPO-WFAO スタッフ
日本	伊串 有香子	NPO-WFAO スタッフ
日本	金田 彩音	NPO-WFAO スタッフ
日本	熊澤 敦子	NPO-WFAO スタッフ
日本	福島 慎	NPO-WFAO スタッフ



認定NPO法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 (NPO-WFAO)

NPO World Federation of Amateur Orchestras (NPO-WFAO)

「認定 NPO 法人世界アマチュアオーケストラ連盟」(以下認定 NPO 法人 WFAO) は、「世界アマチュアオーケストラ連盟 (WFAO)」から派生して、2007 年 12 月に設立されました。

WFAO は、1991 年に設立された「世界青少年オーケストラ協議会 (WYOC)」が端緒となり 1998 年に青少年、社会人を含む世界のアマチュアオーケストラの交流と発展のために創立され、各国のアマチュアオーケストラやアマチュアオーケストラ連盟を会員として活動を続けています。

認定 NPO 法人 WFAO は、WFAO の活動目的を組織的に支援するとともに、WFAO 加盟団体を含む世界各国のアマチュアオーケストラの活動と交流を幅広く支援する組織として活動を開始し、日本に事務局があります。

アマチュアオーケストラが活発で先進的な活動を展開している国や地域との交流をはじめ、さらに今後発展が期待されるアジア、アフリカ等の地域に対して連帯の輪を広げ、オーケストラ活動を通じて国際社会に寄与するために、グローバルな活動をしていきたいと思っています。

また、単に個人の楽しみとしての音楽だけでなく、青少年教育や社会教育、生涯教育としてオーケストラ活動をとらえ、その国の実情にあった支援活動をしてまいります。

オーケストラ相互の国際交流においては、言語の壁を越える「音楽」という共通語を通じて世界中の人々が共通体験を分かち合うことができます。どのような国、人種、言語、伝統、習慣であっても、モーツァルトやベートーベンの楽譜は変わりません。多数の人間の共同芸術活動として、世界中の人々が共通理解できるテキストがすでに用意されています。この特性を生かし、認定 NPO 法人 WFAO はオーケストラ活動を通じて国や民族を超えた相互理解による世界の平和貢献に役立つ活動をめざしてまいります。



「第1回アジアオーケストラフェスティバル 福岡大会」開催 (2011 年)



「世界アマチュアオーケストラフェスティバル in 静岡」開催 (2012 年)



「第2回アジアオーケストラフェスティバル」を韓国安東市にて開催 (2013 年)



ネパールに中古楽器を寄贈 (2014 年)



**2022
SHIZUOKA**

World Amateur Orchestra Forum

NPO-WFAO JAPAN



認定NPO法人 世界アマチュアオーケストラ連盟
NPO World Federation of Amateur Orchestras

<http://www.npowfao.or.jp>



NPO-WFAO Web Site
<English>



NPO-WFAO Web Site
<Japanese>